

# 少年のころ・・・花火

挿絵 墨(ルイ)

ドドンと上がり 天上の

銀河のほとりに 咲き誇る

両国の花火 川開き

B-29の空襲で

高い建物 燃え尽きて

焼け野が原の 東京は

四谷見付の 交差点

はるかに見えた打ち上げ花火

地平の彼方に 瞬いて

闇に吞まれた 花火たち



線香花火の 煌めきに

似て 消え去った

日本の

大切な記憶

今 いずこ

日本の記憶

今 いずこ



【雑学篇・両国川開き】

両国の川開きは享保十八（一七三三）年五月二十八日に水神祭が行われ、花火が打ち上げられたのが最初でした。昭和五十八（一九八三）年には「両国の川開き二百五十周年記念花火大会」が実施されたほどの歴史ある行事です。

その切掛けは享保十七年に起こった大飢饉です。その年は西日本一帯にイナゴの

大群が発生するなど例年にならない凶作となり、疫病（コレラ等）が流行し多くの死者が出るなどの大変な年でした。これを重く見た幕府が死者の慰霊と悪疫退散を祈って行ったのが、享保十八年の水神祭でした。その後は毎年行われるようになり、江戸市民にも「大川（隅田川旧名称）の花火」として親しまれたようです。

享保十八年の江戸市中では、米価騰貴に不満を抱いた江戸市民による米商人宅の打ちこわしが頻発し、幕府は米穀買占めを禁じ、雑穀の作付けを奨励したと手元の歴史辞典にあります。

大東亜戦争の影響で昭和十五年から二十二年まで川開きは行われませんでした。昭和二十三（一九四八）年に復活しました。その時、四谷見付から見えた川開きの花火をふと思いついて、この作品にしました。

四谷見付から地平ぎりぎりに上がる両国の花火が見えるほど、東京は焼き尽くされていたのです。確認はしていませんが、ひょっとすると四谷の高い所からなら、今でも見えるかもしれません・・・！？ 私はこの年の暮れ上目黒に移り、再び四谷見付に戻ったのは昭和二十六年十二月五日でした。

川開きの花火を見たのは小学校一年のときです。

その後川開きの打ち上げ花火は、昭和三十七（一九六二）年、見物の自動車が交通渋滞を引き起こし、交通規制も出来ないという理由で廃止され、昭和五十三（一九七八）年に再復活しました。戦争中は八年間の中止、戦後の中止は戦争中より長い十五年。進歩と言われるものの愚かしさを感じます。

上記両国川開きの謂れや時期については、墨田区役所に確認しました。

川開きの日程は墨田区役所に問い合わせるとわかります。

二〇〇三・〇六・十二・U P

二〇〇七・〇一・三十 リニューアル